

報告書作成編

A 報告書の仕様

→てびき（整理）P.132-

表紙・奥付を統一する。印刷にあたっては仕様書で提示。

報告書抄録は必須。

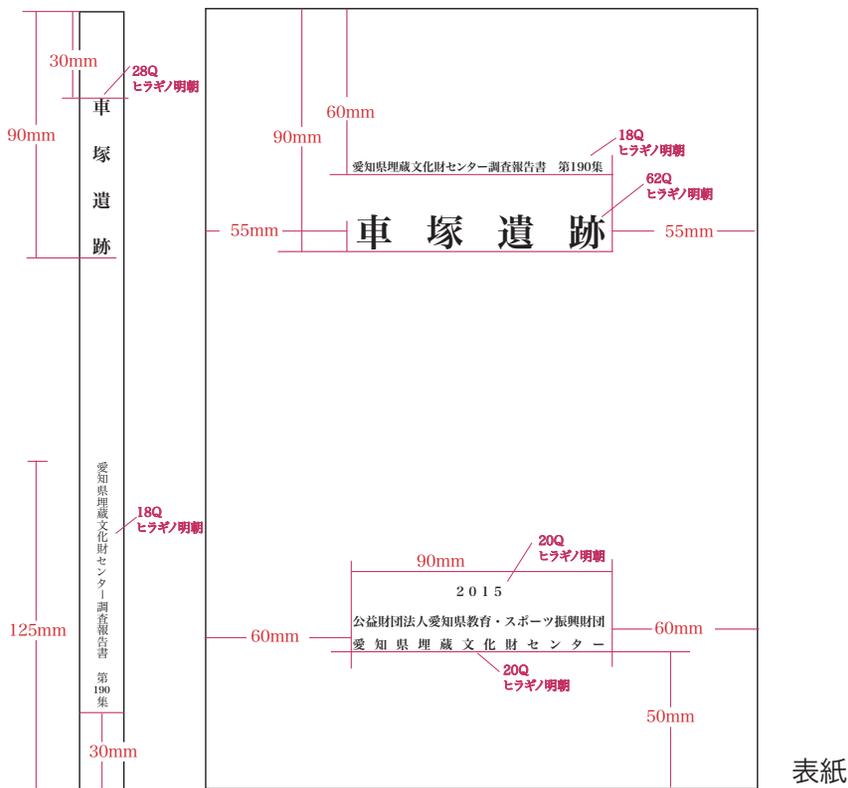
原稿執筆は、テキストデータにて作成。

図面・写真データから図版データ作成。

テキストデータ+図版データから報告書編集（DTP）。

以上の作業工程管理し、報告書原稿を完成させる。その後印刷工程。

報告書の表紙と奥付の仕様



表紙



奥付

報告書印刷の仕様書

仕様書

★備考

1	品名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第●集 『●●遺跡』	
2	版式	オフセット印刷	
3	部数	300部	
4	規格	A4判 縦型	
5	頁数	●頁（表紙・見返しは除く）	※中表紙から奥付までの頁数
6	活字	写真植字（DTPにて組版すること）	
7	製本	糸かがりとじ あじろとじ	←2つのうちから選択
8	入稿	フルデジタルDTP渡し DTP渡し＋一部指示あり レイアウト作業は割付の指示あり 本文・図・写真データ渡し 同左＋デジタルデータ（写真）の調整 同左＋一部写真はフィルム（●点）入稿	←6つのうちから選択
		挿図（データ・原図） 版下原図●点	←データ以外の原図あれば選択
		使用OS MacOSX（OS10.13.●●）	
		使用ソフト インデザイン（●）・フォトショップ（●）・イラストレータ（●）	←バージョンを記入
9	備考	CD-ROM添付（別紙仕様書を参照）	※データ量多いときはDVD

仕様の内容

A	頁数	表紙… 4頁（片面白）× ●分冊 本文… ●頁（序・例言・目次・抄録・奥付を含む） 巻末図版… ●頁 写真図版… ●頁	
B	組版	DTP組版 本文写植横打…フォント名●体●級（●字×●行、●段、行間●） 注記… フォント名●体●級 図表見出し…フォント名●体●級 その他の割付は指示通り 提出した割付表を参考にすること	※フォントは必ず ※フォントは必ず
C	製版	表紙・序・例言・目次・抄録・奥付…1色刷り 本文…（オフセット 白黒●頁・2色刷り●頁・4色刷り●頁）（スクリーン175～200線） 巻末図版…（オフセット 白黒●頁・2色刷り●頁・4色刷り●頁）（スクリーン175～200線） 写真図版…（オフセット 白黒●頁・2色刷り●頁・4色刷り●頁）（スクリーン175～200線）	←選択 ←選択 ←選択
D	校正	表紙・本文…版下校正3回 カラー図版・写真図版…版下校正3回（本紙色校正1回含む）	
E	用紙	白色度70%以上の用紙を使用 表紙…レザック80 こそめ 210Kg（四六判換算） 巻末図版…アート・マットアート 62.5Kg・76.5Kg（菊判換算） 写真図版… マットアート・マットコート 62.5Kg・76.5Kg（菊判換算） 本文… マットコート 62.5Kg・76.5Kg（菊判換算） 見返し… 上質紙 57.5Kg（A判換算）	←選択 ←選択 ←選択
F	抜刷	無し 有り	←選択
G	備考	最終印刷データをDVD-Rなどにて返却すること ※写真・図版本画像入り、インデザインにて編集したファイルおよび使用したデータを含む。 分冊の場合は箱付きのこと。 正誤表添付もあり。検査用に完成品納入時に、編集者に1冊別送のこと。	

報告書抄録の仕様

ふりがな	はねいせき							
書名	羽根遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第166集							
編著者名	成瀬友弘、川添和暁、鬼頭剛、株式会社パレオ・ラボAMS年代測定グループ							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2010年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
はねいせき 羽根遺跡	あいちけん とよかわし 愛知県豊川市 はぎちよう 萩町	23207	820042	34度 52分 10秒	137度 19分 39秒	2009.04.23～ 2009.09.01	4,100	道路改良 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
羽根遺跡	集落	戦国時代 ～ 江戸時代	掘立柱建物跡、 溝、石組み、石垣、 井戸、土坑等	土師器(皿・鍋)、 瀬戸美濃窯産陶器、 石塔・石器、銭貨、 金属製品、木製品等		石塔類の集中廃棄		
文書番号	発掘届出(19埋七第117号・第118号 2008.3.12) 通知(19教生第2987号 2008.3.25) 終了届・保管証・発見届(20埋七第65号 2008.9.1) 鑑定結果通知(20教生第1559号 2008.9.30)							
要約	本遺跡は、山陰川東岸の丘陵端部に立地している。調査では主に戦国時代から江戸時代にかけての遺構や遺物が確認された。当該期には墓域や屋敷地などが展開していることが判明した。屋敷地は、斜面に地山の削平と盛り土等で整地して平場を築いており、それぞれを溝で区画している。溝は部分的に石組みや暗渠をもったものも確認されている。今調査で当該地域の近世の集落を考える上で貴重な資料を得ることができたと考えられる。							